

領事とあり陽玉といふ病氣養生と云ふより作事
水け乾き翌日江府と云ふ十月申向山脈下着
あふ今たおもひおとあしとて折斗ふひるる醫術
祈禱も叶はざり終に崇長十九年甲寅四月十八日
享年五十九歳にて逝去と云ふは法名玉山白
道大居士と云ふに殉死の義実河江肥前守
同十々長岡但馬山家河内等光禪寺とて殉死
といふ其所肥前守身近く召侍者あり進出と
供中にも皆みまふ所肥前守と云ふにともむる
源引あり其途黄泉の旅に誰有て所供と云ふと
まぢは腹かき切しと云ふ誠な事し少きと云ふ人
皆かんせぬものなりと云ふ

光禪寺は義光公の開基寺とて天龍山と号し宗洞禪林
なり元七日前に有て義光公の遺骸を以て葬りあり
最上家改易の後多居左京亮殿移封せられて元禄年
に光禪寺を三日所の地に移し義光公墳墓を改葬し
て其跡に一寺創立せられ長源寺と号す則多居公の
菩提寺とし玉あり

崇長九年大坂御陣の時駿河守殿江戸表中留守
居は御付て出陣に決せし事終に思ふに多居公之大